

6月1日 写真の日

日本写真協会により1951年に制定されました。1841年6月1日に、はじめて日本人が写真撮影を行ったことにちなんだそうです。被写体になったのは島津斉彬、撮影者は薩摩藩の御用商人・上野俊之丞と言われていました。実は後日、誤りだったことが分かったのですが写真の日はそのまま残りました。

島津斉彬を撮影したのは1857年9月17日薩摩藩士の市来四郎、宇宿彦右衛門らによるとされています。ダゲレオタイプ（銀板写真）で撮影されており、その写真は現在重要文化財になっています。

幕末期は、銀板から湿板へ移行する時期だったので、日本で銀板が使われたのは短期間だったようです。島津斉彬を撮影したこの写真は、日本人が撮影したと言うことで写真史上でも価値が高いそうです。

銀板写真は銀メッキされた銅板を感光剤に使うもので、フィルムのようにネガではなく、ポジの状態です。1枚しか残すことが出来ず、左右反転した像を見るようになるのです。

見る角度によっては、ネガのようにもポジのようにも見える神秘的な銀板写真は「記憶をもった鏡」と呼ばれました。大変傷みやすいので専用のケースに入れて鑑賞しました。

最近の写真はデジタルなので好きなだけ撮影できます。失敗したと思えばすぐ取り直しできるし、たいして価値もないものでも、簡単に撮影してしまいますね。

先日片づけをしていたら、子供のおもちゃのカメラが出てきました。なんとフィルムが入ればなしだったのですが、「今更、現像してみてもな・・・」と思えてフィルムは廃棄することにしました。もう忘れていたのだから忘れたままにしておこう。

ところで、フィルムで撮影していたときは、フィルムの残り枚数を気にしなければなりませんでしたが、現像にもお金がかかるから、むやみに撮影することは出来ませんでした。ですから、1枚の写真は貴重なショットでした。

東日本大震災の津波で多くの写真が散逸し、持ち主を探すのに苦労している話を聞きます。思い出を残した写真が、とても大切なものなのですね。家や家族をなくした人たちにとっては、小さな写真が大きな心の支えになるのです。

パソコンにたくさん撮りためている写真のデータも、いくらか紙にプリントアウトしておこうかな・・・。

6月2日 1743年 カリオストロが生まれました。

カリオストロと言えば、「ルパン三世」の劇場映画第2作、「ルパン三世 カリオストロの城」を思い浮かべてしまいました。カリオストロ伯爵は、やっぱり怪しい人なのです。

本名ジュゼッペ・バルサモ、カリオストロ伯爵を自称した人物で、マリー・アントワネットを巻き込んだ有名な詐欺事件「首飾り事件」で失脚しました。

カリオストロは、首飾り事件と関係がなかったとも言われていますが、なにせ怪しい人物であったことには違いありません。低い身分の生まれでしたが、上流社会に紛れ込み機会を得てのし上がろうとした人でした。

医師、魔術師、錬金術師、オカルト専門家など いろいろな肩書きを使い分けた、つまり「いかさま師」、「山師」で、当時こうした「いかさま師」は珍しい存在ではなかったようです。

見た目もそこそこで、頭がよく弁が立ち、なんとか出世したいと思っても、厳しい身分制度があつては、まじめに働くだけではどうにもならない・・・と言うことは、金持ちに寄生して甘い汁を吸うのが早道。

そんな風に考えていたに違いないですね。心の中に、どろどろした社会に対する恨みとコンプレックスを抱え、詐欺行為もさえも正当化していたのでしょう。

ところで「首飾り事件」は、いわゆる「かたり詐欺」に分類される事件です。かたり詐欺は、現在でもオレオレ詐欺、振り込め詐欺、架空請求詐欺や融資保証金詐欺など多くの被害がある犯罪です。

巧みな語り口と、手の込んだ小道具などを使う場合もあるそうなので、くれぐれもご注意を。

6月3日 1975年日本の戦後初の国産戦闘機であるF-1が初飛行しました。

F-1（エフワン）は航空自衛隊で1977年から2006年まで運用された支援戦闘機です。支援戦闘機とは戦闘機を支援する飛行機なのか？と考えてしまいますが、バリバリの戦闘攻撃機に相当します。爆弾を搭載して地上、海上を爆撃する戦闘機ですが、空中戦には不向きです。

支援と付いているのは、地上部隊や艦隊を空から支援する、つまり地上や敵の艦隊を攻撃するための戦闘機、そして当時の世論や外国への配慮などのためです。自衛隊が、軍隊ではなく自衛のための集団だと言うのと同じ理由です。

F-1は三菱重工によって77機が製造され、それ以前から運用が始まったT-2の超音速高等練習機と合わせて173機の国産戦闘機が配備されました。F-1が およそ27億円 T-2が19億円とされています。

現在は、どちらも退役しており F-2（三菱重工製造） F-15 F-4の3種が配備され、名称も「戦闘機」とされています。戦闘機に関しては是非ないことと思いますが、実際にどのような物体がどのくらい飛んでいるのかぐらいは、知っておかなければいけない気がします。

6月4日 1883年 諸橋轍次（1883年6月4日～1982年12月8日）が生まれました。

広辞苑が、新村出なら漢和辞典は諸橋轍次（もろはしてつじ）ですね。

大修館書店から出版されている大漢和辞典は、親漢字5万文字と熟語53万余語を収録した世界最大の漢和辞典で、依頼があった1925年から補巻が刊行された2000年まで75年の歳月を費やして完成しています。時に諸

橋大漢和と称されることもあります。

諸橋は中国に留学していましたが、中国には康熙字典『佩文韻府』などの大辞典があるにはあるが、語彙が少なかったり解釈が不十分だったりして満足できる辞書がなく、内容の充実した大辞典の必要性を痛感していたそうです。

膨大な中国の書物から親漢字、語彙などを蒐集し、カードにまとめ、また印刷所では、そのために5万字の活字を6種類の大きさで揃え、文選していくという際限ない作業が続きました。

そして1万5千ページが出来上がり、第1巻が出版されました。1943年のことでした。ところが1945年2月、東京大空襲によって版とすべての資料が灰燼に帰しました。そして酷使し続けた諸橋の右目は失明、左目もやっと明暗が分かる程度になっていました。

幸い残っていた3部のゲラ刷りを元に、また作業を続け、全13巻がそろったのは1960年のことでした。その後 索引の14巻 補巻の15巻が出版されました。

吉川英治氏はこの大漢和辞典を日本文化のバックボーンと賞賛し、井上靖氏は大漢和を開く時間は、他にないほど贅沢な時間だと言っています。また金田一京助氏は漢字世界の金字塔と称えました。

漢字は中国から伝わったものですが、これほどの大辞典は本家を超えるものです。説文が引用されているので文字の由来も分かるようになっていますが、いかんせん、理解できる知識がないですね。

白川静氏が漢字の成り立ちは宗教的、呪術的なものが背景にあったと主張していたのを興味深く読んだことがあります。説文を引用した解説に、なるほど・・・と書いていたのですが、この15巻に及ぶ大漢和を楽しむことが出来れば、確かに、それ以上の贅沢はないかもしれません。

ま、猫に小判って感もありますが。

2000文字ほどの常用漢字すら満足に使いこなせないでいるのに大口はたたけません、漢字って奥深いものです。成り立ちや由来、使われ方、歴史など知れば知るほどすばらしいです。

私たちの思考の根幹になる漢字、もっと大切に、もっと注目しなきゃ・・・。

6月5日 1882年 嘉納治五郎が東京下谷稲荷の永昌寺に柔道場（後の講道館）を開きました。

最近、不祥事が相次ぐ柔道界ですが、嘉納治五郎という人は柔道だけでなく教育者としても優れた人であったようです。

1877年東京大学に入学した嘉納治五郎は、自らが虚弱な体質のために武道でなかなか勝てないことを悔しく思っていました。そこで力が強くなくても強力なものに勝てる柔術を学びたいと考えていましたが、文明開化の世の中、武術は蔑ろにされていた時代でした。

柳生心眼流、天神真楊流柔術、起倒流などを学び、独自の「柔道」を作り上げました。そして講道館を設立し

たのです。

柔術だけでなく剣術や棒術、薙刀術などの古武道についても理論化することを理想と考えました。「古武道研究会」を開いて、講道館の有段者に剣術や棒術を学ばせました。古武道は技を身につけるだけでなく精神修養に大いに役立つと考えられていました。

治五郎は東京高等師範学校（現・筑波大学）の校長をはじめ、旧制第五高等中学校（現・熊本大学）の校長を務め、旧制灘中学の設立に関わったり、中国人留学生のための学院を開いたりしています。かの魯迅も、そこで学んでおり、2007年温家宝が来日した際にその話題に触れています。

「精力善用 自他共栄」は嘉納治五郎の有名な教えです。

「精力善用」は「柔よく剛を制す」つまり、自身の持つ心身の力を最も有効に使用するとの考え方です。また相手に対し敬意、感謝することで、信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人と共に栄えある世の中にしようとするのが「自他共栄」です。ですから、柔道は「礼に始まり、礼に終わる」わけです。

柔道とは一スポーツにとどまらず、自己を修養し、人間としてのあるべき姿を目指すもの、そして実生活に生かすことで、社会の発展に貢献しなければいけないということです。全く、不祥事なんか起こしている場合じゃないよ！！

ところで、柔道と言えば「姿三四郎」を思う人もおられることでしょう。姿三四郎には、嘉納治五郎がモデルとされる矢野正五郎が登場します。また現在でも「三四郎」と称される柔道家は、小柄でありながら大きな選手を相手に活躍した選手のことを言いますね。「柔よく剛を制す」を実践する選手と言えましょう。

平成の三四郎と言えば、現在環太平洋大学の女子柔道部を指導して、実績を上げている古賀稔彦さんのことですし、女三四郎と言えば山口香さんのことです。

必ずしも大きな体躯でなくても勝つことが出来るように考えられたのが柔道というわけです。きれいに技をきめるわけでもなくポイントを稼いで勝つことだけを目指す最近の柔道は、どうかと思えるのです……

6月6日 1984年 ソ連でコンピュータゲーム「テトリス」が作られました。

4つの正方形が組み合わさった7種類のピース（テトリミノ）が上から降りてくるのを、回転させたり左右に動かしたりして、はめて段を消していく……って説明するまでもなく、たいていの人は知っているゲームですよ。

ソビエトの科学アカデミーに勤務していたアレクセイ・パジトノフほか3名の研究者が教育用のゲームとして開発したものです。冷戦当時のソビエトで開発されたことで、このライセンスを取得するのは、緊張を伴うものだったそうです。

日本に入ってきたのは、1988年。セガから業務用ゲーム機版（AC）として発売されました。1989年には任天堂からゲームボーイ版が発売されています。

シンプルですが、それゆえに奥深いゲームで、その上言語を使わないことから、世界中に広く親しまれています。

テトリスなどゲームに熱中すると「ゲーム脳」になって痴呆患者の脳波に似てくると言われたことがあります。最近では科学的根拠に乏しいと否定的ですが、あまりにもゲームに夢中になると、日常生活に支障をきたしてしまいます。なかなかやめられない感覚は、皆さん味わったことがあるでしょう。

ところで、テトリスはゲームの歴史に名を残す名作ですが、おっちゃんにとっては、やはりスペースインベーダーゲームの登場に方が衝撃だった気がします。あまりにも流行したために、硬貨を4トントラックで集金したとか、それでもサスペンションが壊れたとか、都市伝説もいろいろあるようです。

パフン、パフンのインベーダーゲームがある喫茶店・・・まだ、あるかな？

6月7日 1955年東京・豊島公会堂で2,000人が参加し第1回母親大会が開催されました。

1954年にビキニ環礁でアメリカ合衆国が水爆実験を行い、世界に衝撃が起きました。日本では第五福竜丸をはじめ多くの漁船が被曝したことで、魚介類の廃棄や健康問題などが取りざたされました。

女性運動家平塚らいてう等の「原水爆禁止」の訴えがきっかけとなり、核戦争の危機から子どもの生命を守る母親の大会が提起され、1955年6月に「日本母親大会」が誕生しました。その年の7月に世界68カ国が参加して世界母親大会がスイスで開催されることとなり、それに先駆けて日本で第1回母親大会が開催されました。

「日本母親大会」は母親を「母性を持つすべての女性を対象にした呼び名」と位置づけ、「生命を生み出す母親は生命を育て生命を守ることをのぞみます」のスローガンを掲げ、女性団体・社会運動団体・労働組合・教育問題を取り扱う市民団体などで構成されました。

「嫁をもらう、娘を片付けるなどの言い方をやめ、結婚と言おう」「主人と呼ばず夫と呼ぼう」「女だてらに、という言い方はやめよう」などと申し合わせ、この大会によって母親たちの社会活動の意欲が高まったと言われています。

「日本母親大会」は、その後も6月7日ではありませんが毎年開催されており、今年59回大会は東京、去年は新潟で開催されています。

ところで、こうした女性たちの主張は、何とか運動と言ったなあ・・・と考えて、そうそう「ウーマンリブ！」と思い出しました。

ウーマンリブ運動は、戦後世界的に広がって行き、日本でも1960年ごろから盛んになりました。ウーマンリブといえば、「何とか連」という過激なおばさんたちがいた気がする・・・ ・何だっけ？ 何だっけ？

確か、ピンク色のヘルメットを被っていたんじゃないかな・・・

「ウーマンリブ」「連」で検索したら出てきました！ そうそう「中ピ連」。子供でしたので、どんな団体かも

よく分からなかったのですが、子供心に違和感を覚えていたかも……。奇しくも来週 14 日は「中ピ連」が結成された日となります。

6 月 8 日 1949 年ジョージ・オーウェルの小説『1984 年』発刊されました。

小説『1984 年』は 1950 年代に発生した核戦争後、世界は 3 つの超大国に統合され、そのひとつオセアニアでは市民生活が厳しく統制される全体国家と なっていました。そういう生活に不満を持っていた主人公が、自分の意思とは別の考え方に洗脳されていく全体主義の恐ろしさを書いています。

ジョージ・オーウェルは植民地時代のインドに裕福な資産家の家に生まれました。学業は優秀でしたが、自分に自信がもてない性格だったようです。イギリスのイートン校ですごした後、ビルマの警官として勤務します。

その経験が元になって、「ビルマの日々」「象を打つ」「動物農場」などが書かれていますが、この 1984 年もその後のビルマ（ミャンマー）の軍事政権時代を予見したのではないかとされています。

ランダム・ハウス、モダン・ライブラリーが選んだ「英語で書かれた 20 世紀の小説ベスト 100」やノルウェー・ブック・クラブの「史上最高の文学 100」に選ばれるほど欧米では高い評価を得ています。

この小説が書かれた頃は、イタリアやドイツのファシズムは崩壊していますが、ソビエトなどでは共産主義を唱えており人々の生活は統制されていました。原爆の投下という現実の出来事も目にし、日本がアメリカに占領されていたことも知っていたでしょう。キーワードは揃っていたわけですね。

村上春樹氏の「1Q84」はこの「1984 年」に影響を受けていると言われています。全体主義が恐ろしいとも感じますが、ある意味滑稽とも感じます。

ちょっと読みにくくて、そのままになっていたから、改めて読み直してみようかと、本箱の奥を探してきました。

6 月 9 日 1934 年 Donald Duck が「かしこいメンドリ」でデビューしました。

かしこいメンドリはイギリスのおとぎ話「ちいさな赤いメンドリ」をもとに、ディズニーのキャラクターがコミカルに表現する短編映画でした。

Donald は、その独自のキャラクターで人気者になり、「Donald Duck の短編映画シリーズ」をはじめ出演作品は 170 本以上となり、ミッキーマウスの出演作品数を超えるほどになりました。

この映画では、ブタのピーター・ピグと共演していますが、残念なことにピーター・ピグは 1935 年の「ミッキーの大演奏会」以降の出演はありません。

また、6 月 9 日は Donald の誕生日と言われることもありますが、1949 年の映画「Donald の誕生日」では 3

月 13 日金曜日とされています。

ガールフレンドはデイジーダック。1937 年 1 月 9 日公開の短編映画『Donald のメキシカン・ドライブ』で初登場していますが、このときの名前はドンナ・ダック、デイジーダックになるのは 1940 年からです。気が強くて勝気な性格のデージーと短気な Donald はしょっちゅうケンカしていますが、似た者同士、お似合いのカップルです。

Donald 語とも言えるユニークな言い回しとして「Oh boy! (あれ、まあ!)」「For me? (僕にかい?)」「I'll fix him! (いまに見てろよ!)」などがあります。特徴のある声で、わめくので、他のキャラクターに聞き取ってもらえないこともよくあります。声優さんは、口をすぼめ、のどの筋肉を強く働かせて独特な声を出しているそうです。

1943 年、ドイツのヒトラーとナチズムを皮肉った作品「総統の顔」ではアカデミー短編アニメ賞を受賞しています。ドイツだけではなく、枢軸国側を皮肉っているのも、日本での公開はありませんでした。

Donald は、怒りっぽくて自己中心的、けちでだまされやすいなど悪役的な存在で、ひどい目にあって終わることが多いようです。甥のヒューイ・デューイ・ルーイ と生活している時は食事を作り、ホットケーキを焼くシーンもあることから、意外と料理上手なのかもしれません。

子供っぽくて毒舌、気性も激しいのだけれど、単純で気のいいところもあり喜怒哀楽もはっきりしているから、憎めないキャラなのですね。本当の悪役ではなく、誰の心にも潜んでいる、ちょっといやな自分の象徴のようところが支持を得るゆえんではないでしょうか。

6 月 10 日 1913 年 森永ミルクキャラメルが発売されました。

1899 年森永太一郎がアメリカから帰国し、「森永西洋菓子製造所」設立しました。そのときからキャラメルの製造を開始し、バラ売り・量り売りをしていました。60 粒が 40 銭でした。

当時のキャラメルは森永太一郎がアメリカで覚えてきたバターやミルクをたくさん使ったソフトタイプのもので、一般の日本人の嗜好にはあわなかったようです。メニューの名前としては、フレンチキャラメルだったようです。

また、高温多湿の日本の気候に合わずキャラメルが溶けてしまうのでブリキの缶に入っていました。

その後、改良が重ねられ、1913 年森永ミルクキャラメルの商品名が付きました。翌 14 年には、携帯用の紙のケースに入ったミルクキャラメルが 20 粒入り 10 銭で発売されました。

「携帯しやすさ」が大ヒットとなり、以来黄色い箱のミルクキャラメルのパッケージは、ほとんど変わることなく今に至っています。表面の左右に「滋養豊富」「風味絶佳」の筆文字があり、歴史を感じさせますね。

チョコレートは高級な輸入品でしたが、キャラメルは庶民的で広く愛されたようです。タバコの代用にとかかれた広告も存在します。

森永と言えばエンゼルのマーク、「おいしく たのしく すこやかに」のシンボルとしてエンゼルマークは1905年に商標登録されました。現在までに7回モデルチェンジしていますが、エンゼルは森永のシンボルです。

今年は100年にあたるので、ミルクキャラメル記念商品も販売されるようです。

6月11日 1972年佐藤内閣の通産大臣だった田中角栄が「日本列島改造論」を発表しました。

翌月に自由民主党総裁選挙を控え、政策綱領として発表されたものでした。情報や物流のネットワークを整え工場を地方の過疎地に建設することで、都会に集中していた産業や人口を地方に分散させるというものでした。

事実上の公約となった「日本列島改造論」を掲げ、第64代内閣総理大臣に選出されました。

田中角栄が高等小学校卒業であるにも関わらず、総理大臣にまで出世したことと、この夢のような未来計画で、国民は大いに盛り上がり日本列島改造ブームが起きました。1972年1月から1973年11月までを「列島改造景気」と呼んだりします。

工場用地が各地に整備され、地方空港や高速道路が作られ、年金生活者のためのクリーンピアの建設、本誌連絡橋計画などが進められました。

しかし、利用のめどがなく採算が合わないなど無計画な事業もあって、その後の地方財政を疲弊させるものも少なくありませんでした。

その後、金脈問題で田中角栄が失脚し、追い討ちをかけるように「オイルショック」の影響もあって、夢の未来計画は実現したとは言いがたいものになってしまいました。

その結果、地方自治体は多額の借金を抱えることとなり、中心市街地のドーナツ化現象、地方交通の廃止などを起こすこととなりました。ただ、情報網の整備だけは、時代の要請により促進されていきました。

田中角栄ブームは、すごかったと思います。高度経済成長の最後の花火のようだった気がします。子供向けに書かれた田中角栄の伝記を母が買ってきたのを覚えています。

まっ、この～～ 良くも悪くも、大きな影響が・・・ないわけではありませんが～
たいした、総理大臣だったね～。

6月12日 1910年宇野線岡山～宇野が開通し、国鉄宇高連絡船が運行を開始しました。

岡山～高松間の運行は、1903年3月18日 山陽汽船商社によって開始されていました。山陽汽船商社は山陽鉄道傘下の会社です。

岡山港から出た船は浅喫水船だったので、三幡でいったん乗り換えて、高松に向かうので、便利が悪かったよ

うです。そこで宇野港から高松に向かう航路を目指していましたが、結局 1906 年に鉄道国有化が実施され、宇野～高松は宇野線の開通を待って、国鉄宇高連絡船として就航することになりました。

1987 年 4 月 1 日からは JR 四国の管轄となり、1988 年 4 月 9 日まで運行されました。

瀬戸大橋の開通、そして通行料金の値下げで、船を利用する人が激減しました。時間もかかりますしね。でも、悪天候で瀬戸大橋が通行止めになっても船は運行できる場合もあって、フェリーを完全に廃止することは出来ないですね。

四国から荷物を送ってもらうとき、「荷物は必ず発送するが、翌日届くかどうかは分かりません。台風が来ますから」と言われたことがあります。天候によって交通網が途絶えることに敏感なんだと驚いたのです。

6 月 13 日 1986 年本田圭佑が生まれました。

あまり若い人の誕生日は取り上げないのだけれど、先日のオーストラリア戦で終了間際に PK を決め、ワールドカップ出場を決めたのが、あまりに強烈な印象だったので、本田△ということで取り上げてみました。

大阪府摂津市出身で、高校は石川県の星稜高校卒業。高校卒業後は名古屋グランパスと契約していました。現在は CSKA モスクワ所属。ポジションはミッドフィールダー、フォワード。

2010 年には日本年間最優秀選手賞を獲得しています。

技術はもちろん、押しの強さもよく動くことも抜群です。しかも何ともふてぶてしい……。面構えもハンパない。それに本田が両腕に時計をはめていることも有名です。ロシア時間と日本時間が分かるようになっているのだとか。

15 日から始まる FIFA コンフェデレーションズカップ 2013 では、公式 HP に日本人選手としては唯一、注目選手として取り上げられています。

開幕戦で強豪ブラジルと対戦する日本チームが、どんな試合を見せてくれるか楽しみですね。

6 月 14 日 1811 年ハリエット・ビーチャー・ストウが生まれました。

「アンクル・トムの小屋」を書いたストウ夫人と言えば、お分かりでしょう。奴隷制度に反対した小説を書き、大きな反響を呼びました。「アンクル・トムの小屋」はアメリカでの奴隷の生活と、その社会的背景を克明、かつ情緒的に書き表しており海外でも広く翻訳されました。

リンカーンがストウ夫人に会ったとき、「そうか、このしとやかな夫人があの大戦争をひきおこしたのだな」と言ったという逸話があるように、この小説が南北戦争を早めたとも言われています。

ストウ夫人ことハリエット・エリザベス・ピーチャー・ストウは、コネティカット州の厳格なカルバン派の牧師の家に生まれました。その後家族とともに奴隷制 反対活動の中心地であったシンシナティに移住しました。父親が神学校の校長をしていたり、姉が女学校を創設したりする教育者の家庭で、彼女自身も教鞭をとることもあったようです。

1836年に聖職者のカルヴィン・ストウと結婚したことでストウ夫人と呼ばれるようになりました。

当時のアメリカは、奴隷制度のある州とない州があり、もし奴隷が逃亡し非奴隷州に逃げ込んでも、その住民は奴隷を捕まえることに協力しなければならない という法律が 1850年 成立しました。この法律には反対する人が多く、ストウ夫人も猛烈に反対の立場をとっていました。

その頃、かねてから彼女の文才を高く買っていた従姉が「わたしがあなたみたいな文才があったら、奴隷制度が忌まわしい制度だと感じさせるような小説を書くわ」と言われ、まるで稲妻にかかったように、奴隷制度の残酷で、非人間的な制度を批判するものを書いてみる決心が湧いてきたと後に述べています。

始めは雑誌の投稿として掲載されていましたが、1852年に単行本として出版され1年後にはアメリカ全土で32万冊が売れました。ストウ夫人の存命中に300万部以上が世界中の国々で翻訳され、19世紀において聖書について2番目に売れた本といわれるほどの大ヒットとなりました。

ストウ夫人のことは小学校の教科書で知ったと思います。小説が戦争を引き起こすまでに反響があったということ、そして奴隷制度という残酷な制度に対する恐れ、そして小説を書いたのがしとやかな女性であったこと、そうしたことから、とても強烈に覚えている人物の一人です。

6月15日 1963年坂本九の『上を向いて歩こう(スキヤキ)』がアメリカのヒットチャートで1位を獲得しました。

作詞は永六輔、作曲は中村八大 いわゆる「六八九トリオ」によるヒット曲です。

日本では1961年10月15日にレコードが発売されました。11月から翌年1月まで3ヶ月国内レコード売上の1位を維持しています。

1962年にはヨーロッパで紹介され、イギリス、フランス、ベルギー、オランダでもヒットしました。イギリスでは、ジャズに編曲されバンド演奏されたものが全英10位にランクインしています。

1963年5月にアメリカでレコードが発売されると、ビルボード誌の6月15日付から6月29日付まで3週連続、キャッシュボックス誌で6月15日付から7月6日付まで4週連続1位の大ヒットとなりました。ビルボード1963年の年間でも10位にランクインしています。

なんで「SUKIYAKI」なんだろう、って思うのですが、契約の時に来日したレコード会社の社長が、簡単でわかりやすい日本語の名前ということで「美味しかったあの料理の名前」で「SUKIYAKI」になったのだとか。

その程度ですよ。当時の日本といえば。1ドル360円の時代だし……。

坂本九の物真似をするときには、必ず「ウヘホムフヒテ、ア〜ルコホホホ・・・」となりますよね。最初、作詞者の永六輔はこの歌い方が気に入らなくて激怒したそうです。

九ちゃんが母親から小唄や清元を習っていたことと、高校時代からプレスリーやバディ・ホリーが好きでよく物真似をしていたのが、こんな歌い方になったそうです。そのために日本では、始めの頃あまり評価が高くなかったそうですが、外国では大いに受けたということですね。

日本の曲が、たまたまヒットしたのかな？程度に思っていたのですが、この曲が70カ国以上に広まった背景には、日本の音楽を世界市場に普及させる夢と志を持った日本人の努力が数々あったそうです。

そして敗戦国の汚名と偏見に負けないように、この歌を聴きながら海外で活躍した日本人の苦労もたくさんあったのだそうです。高度成長時代、日本人に夢と希望を与えてくれた曲と言えるでしょう。

そういえば今でも古臭い感じがしないし、明るい感じの曲なのに、歌詞はちょっと切なくてじ〜んとくるう。50年たっても、いいものはいい！

6月16日 1897年石森延男が生まれました。

なんてマイナーな人物・・・とも思うけれども、光村図書の国語教科書を使っていた、ちょっと年配の人なら、名前はきっと見たことがあるはず。でも、どんな人かは知らないのでは？

石森延男氏は北海道に生まれ、中学校の教師を経てのち、1926年満州で教科書の編集部に勤務しました。その後文部省で国民学校の国定教科書の編纂に携わっています。

生まれが北海道ということと、満州での勤務経験があることから、冬や北国に関して印象的に書き残しています。

グスベリ

よく見てください。

きらきらした宝石みたいな光が、
ぼちりとかがやいていますから。

そのかがやきは、
ひたすらに春を待つよろこびなのです。

このささやかなよろこびがあればこそ、
北国の子どもたちは、冬という時期、
どうにもならない現実をすなおにうけいれ、
おとなしく降参してしまうのです。

1957年に、北海道のアイヌを主人公とした『コタンの口笛』で未明文学賞、産経児童出版文化賞を受賞しており、映画にもなっています。

アイヌと言えば、昨日15日はアイヌ文化の研究者で参議院議員になったアイヌ出身の萱野茂氏の誕生日でもありました。と言うわけで、ちょっとアイヌつながりでもあるのです。

アイヌの言葉で「カムイ」は自然を意味しますが、自然のものすべてに精神が宿っていると考えるので、それらすべてが神様とされていました。

石森氏の言葉を借りれば、

空窓

火の神だけではない、いろいろな神を信じている。

神さまがいるか、いないか、

それはべつにしても、ぼちがあたりはこわい。

そんなことすらうたがわないうで、

心からアイヌの神さまを信じている。

子どものときからまようことなく、

火の神でも川の神でも、クマの神でも信じている。

だから、アイヌの子どもは、けっして神をそまつにしない。

ただひとりであるときも、わるいことをしない。

神が見ていると思うからだ。

日本語の「神」の語源は、韓国語の熊を意味する「コム」の語源と同じではないか、またアイヌの「カムイ」ともつながっていると説く学者がいます。「イオマンテ」つまり「熊送り」のお祭りはアイヌの大切な儀式で、熊を神聖なものと考えていることの証拠です。

韓国にも熊を神様と考える神話があります。山や森で出会うことのある恐ろしい熊を、古代の人々は自然を支配する神の化身と考えていたのではないかと言うことです。

おっちゃんが、学んだ国語の教科書、どんな人が編修していたのか、どんな気持ちで子供を教育しようとしていたのか、石森延男氏を知ることによって、ちょっと分かった気がしました。

さて、今の子供たちは、どんな風に考えるようになるのでしょうかね。

6月17日 1631年ムガル帝国の第一皇妃ムムターズ・マハルが亡くなりました。

皇帝シャー・ジャハーンは彼女のためにタージ・マハルを建立しました。タージ・マハルは、インドの代表的な

イスラム建築でムガル朝第5代皇帝シャー・ジャハーン（在位1628～58）が36歳で亡くなった愛妃ムムターズ・マハルの廟として建てたもので、完成までにかかった年数は18年とも22年とも言われています。

タージ・マハルとは「宮殿の王冠」の意味があり、地元では親しみを込めてピーピー・カ・ロウザと呼ばれていました。ピーピーは親しみを込めた貴婦人のことで、カ・ロウザは「貴婦人の廟園」を意味するそうです。

1983年にユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録され、2007年に新・世界の七不思議にも選ばれています。世界でもっとも美しい霊廟と言われるぐらいですから、不思議と言うより、驚愕の建造物という意味合いのようです。

白大理石の壁に彫られた唐草模様には、まばゆい宝石がちりばめられた贅を尽くしたもので、しかもモザイク職人や大理石工、金細工師、宝石職人など世界の工芸技術の粋を集めています。

人の手によって造られたとは思えない気高さと、ムガル朝のもっとも栄えた時代を象徴しています。こんなお墓を立ててもらえた妃、さぞかし愛されていたに違いありませんね。

6月18日 海外移住の日

国際協力事業団が1966年に制定しました。本格的な海外移住の第一陣781人を乗せた笠戸丸が1908年4月28日に神戸港を出港し、6月18日ブラジルのサントス港に到着したことに由来します。

奴隷制度が廃止され、ブラジルのコーヒー農場は著しい人手不足に陥っており、世界中から移民労働者を集めていました。しかし、ヨーロッパ系の移民は奴隷的な待遇が本国で問題となっており、そのために日本人移民は歓迎されたようでした。

太平洋戦争が始まるまでに約25万人の移民がブラジルにわたり、ブラジルは世界で日本人移民の最も多い国となりました。

明治以降「富国強兵」「殖産振興」などのスローガンで移民は国策として推奨され、1925年～1934年の10年間は渡航費が全額補助されました。当時は「満州に行くか、ブラジルに行くか」と海外移民の大ブームとなったのです。

ところで、この時移民を乗せたのが「笠戸丸」

♪ 海猫が鳴くから ニシンが来ると

赤い筒袖の やん衆がさわぐ

オンボロロ オンボロボロロー

沖を通るは 笠戸丸・・・ ♪

と、なかにし礼の「石狩挽歌」の歌詞にも出てきますが、この船もまた数奇な運命の船でした。

そして、ブラジル移民を手がけた「皇國殖民会社」「海外興業株式会社」を創立した水野龍は、岡山にゆかりのある人でした。後にブラジルコーヒーの普及事業を一手に引き受け銀座「カフェーパウリスタ」を興しました。「カフェーパウリスタ」は現存する日本最古の珈琲専門店として知られています。

苦勞の連続だったブラジル移民の話と、それに端を発する興味深い事柄、たくさんあるようです。今の日本の繁栄に大いに影響を与えているのですね。

6月19日 1910年ワシントン州スポケーンで初の「父の日」が祝われました。

ソノラ・スマート・ドッドは彼女の父、W・ジャクソンが男手1つで自分たち兄弟6人を育ててくれたことに感謝し、それを称える「父の日」を提唱しました。当時すでに母の日があったのに、父の日がなかったことを残念に思ったからでした。

ジャクソンが6月5日生まれだったので、6月の日曜日が選ばれ、最初の父の日は1909年6月19日（第三日曜日）となりました。

1916年にウィルソン大統領が父の日の演説をしたことで、アメリカで広く父の日が認識されました。アメリカでは1972年正式に国の記念日に制定されています。日本で父の日が言われるようになったのは、1950年頃からのようです。

母の日を象徴するのは赤いカーネーション、父の日はバラ・・・とか言われますが、男性は花より、お酒やネクタイなどを喜ぶようで、カーネーションほどバラは認知されていないようですね。

アメリカ、日本以外にもイギリス、インド、カナダインド、中国、メキシコなど多くの国で6月の第三日曜日を父の日としているようです。今年は、すでに過ぎてしまいましたが、みなさん、どんな父の日でしたか？

6月20日 世界難民の日

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）らの申し出により、2000年国際連合総会の決議により定められました。元は、1974年にアフリカ統一機構難民条約が発効した「アフリカ難民の日」を改称したものです。

難民とは「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々と定義されています。

難民問題に携わる国連の機関が国際連合難民高等弁務官事務所（略称：UNHCR）です。1951年より活動を始めています。難民高等弁務官と言えば1990年～2000年まで務めた緒方貞子さんが、よく知られていますね。

現在、難民はコンゴ、マリ、シリア、スーダンなどのアフリカ人、ミャンマー、トルコ、スリランカ、エチオピアなどから逃れた人々が世界中に4300万人以上いると言われています。また日本にも1,000人以上がやっています。

人間は、生まれてくる国を選ぶことは出来ません。ふるさとは、どんな人にとっても大切でいとおしい場所であ

るはずなのに住み続けることが出来ないなんて悲惨なことですね。

難民なんて遠い外国のことと思いがちです。積極的に何か支援することは出来なくても、無関心でいることだけは避けたいと思います。無関心ほど残酷なことはないと思うから。

6月21日 1905年ジャン＝ポール・サルトルが生まれました。

フランスの哲学者であり小説家、劇作家でも知られています。またシモーヌ・ド・ボーヴォワールと内縁関係であったことも有名です。

が！ おっちゃんたちの世代は

「ソッ、ソッ、ソクラテスカ、プラトンか〜、ニッ、ニッ、ニーチェか、サルトルか〜〜、み〜んな悩んで大きくなった〜♪」と野坂昭如がウイスキーのCMをしていたのが、強烈な印象なのです。サルトルの思想がどんなものか知らなくても、このCMは知っているのです。1975年のCMでした。

サルトルは無神論的、実存主義を唱え、「実存主義はヒューマニズムだ」と言っています。実存とは、人間だけが自己の存在について意識することができるので、物や他の動植物の存在とは異なっているということです。

また無神論的思考方は、「神は死んだ」時代の人間を分析するもので、「神は死んだ」とはニーチェの言葉です。

「対自的存在」とか「神が死んだ時代」とかキーワードですが、なんだか難しいです。分かったような、分からないようなのが哲学ですが、サルトルの名言を引用すれば

神々と肩を並べるには、たったひとつのやり方しかない。神々と同じように残酷になることだ。

過去とは、所有者の贅沢だ。過去を整頓しておくには一軒の家を持つことが必要だ。私は自分の身体しか持たない。

無神論というのも、実存主義というのも、なんとなく分かるような気がします・・・?!ま、みんな悩んで大きくなったってことです。

頭を使うと、甘いものが食べたくくなりますよね・・・それって、おっちゃんだけかな？

6月22日 1582年(天正10年6月3日)夜、備中高松城の戦いで備中在陣中の羽柴秀吉のもとに本能寺の変の知らせが届いた日

戦国時代は大河ドラマで、もっとも人気のある時代だそうですが、信長、秀吉を描けば必ず登場するのが「備中高松城の水攻め」です。

今は、ほとんど何も残っていないこの片田舎が一躍脚光を浴びる瞬間です。

水攻めという奇策も然ることながら、ちょうど本能寺の変の直後であったこと、それを知った秀吉のすばやい転進で次のリーダーとなったこと、そして伝令が実は毛利方に送られたものだったこと、そんな偶然が、歴史の曲がり角とも言える出来事が、この高松城の水攻めと言えましょう。

水攻めの策を進言したのは黒田官兵衛で、中国の春秋時代、晋の智伯による晋陽城の水攻めをヒントに考えたと言われてます。堤防を築く工事は約12日間、ちょうど梅雨時期、降り続いた雨によって足守川が増水し、200ヘクタールに及ぶ湖になり、高松城が孤立しました。

湖面で清水宗治が切腹したと言われてますから、さぞかしドラマチックなシーンだったのだらうと思います。そりゃ、ドラマにもなるわな……。

歴史に「もしも……」は、ナンセンスですが、つい、「もしも、伝令が秀吉でなく毛利に届いていたら……」と考えたくなりますね。

6月23日 1909年スリの大親分・富田銀次郎が日暮里で逮捕されました。

スリの大親分が逮捕されたって、歴史に残る大事件なのか？と思って調べてみれば、これは警察と窃盗団の癒着が解消されて、公安行政の粛正が行われた大きな出来事だったようです。

そもそも、江戸時代に同心と言われる下級武士（いわゆる一警部補あたりまで？）が、岡引と言われる「情報屋」を使っていたことが、明治になっても続いていたことが、窃盗団の台頭を許していたのです。

岡引は、悪の道に詳しいワル（ヤクザなど）だったといわれており、今でこそ「二足のわらじ」と言えば、普通に職業が二つという意味で使いますが、本来は「警察の手先」と「ヤクザとか窃盗団」という間逆の職業ふたつを指すものでした。

明治になっても、その悪習がそのまま残り警官は情報収集のために、こうしたワルを利用したため、本来のスリの犯罪を見逃していたのだそうです。

お偉いさんが、「時計をすられた」と警察に訴え出れば、警察がスリの親分に相談し、探し出してもらっていたそうです。なんじゃそれ？！

富田銀次郎は、元は腕のいい仕立て屋だったのが、スリの親分の娘婿になって跡目を継いだのだそうです。当時の東京にはこうしたスリの一味がいくつかあって治安がよくなかった上、警察に対する評判もよくなかったようです。

親分と言うぐらいですから、子分のスリの衣食住を組織化し、盗品を加工したり販売したりするルートをきっちり持っていたそうです。

驚いたことに、スリの親分は、子分の「業務報告書(?)」と警察からの「被害報告」と照らし合わせて、子分がピンハネしないように管理していたのだとか……

ところで、赤坂署長の本堂平四郎は情報収集にスリを使う悪習をやめるため、スリの一掃を狙っていました。そんな時、元新潟県知事が電車内で金時計を盗まれる事件があり、その情報を聞くという名目で、スリの親分たちに警察署に出頭するよう要請を「出しました。

しかし、それに応じなかった銀次郎は、大掛かりな捕り物の挙句、捕らえられたそうです。

スリという言葉は体を擦り付けるようにして盗み取るから、漢字では「掏摸」 掏はすくう・・・他人の懐から物をすくい取る、摸はまさぐる・・・手探りを意味します。

また「する」は賭け事に負けて損をするという意味もあるので、忌み言葉とされています。すり鉢を「あたり鉢」、墨をすることを「墨をあたる」、スルメのことを「アタリメ」と言うようになりました。

チラシを刷ることも、チラシをあたる・・・と言うようにすれば、まさにヒット間違いなしです!!! おっちゃんも、移転のチラシをあたることにしようかな。

6月24日 1024年イタリアの修道士グイード・ダレッツォが「ドレミファソラシ」を利用した階名唱法を考案しました。

それは6月24日に開かれる「洗礼者ヨハネの祭」のために、グイードが指導した「聖ヨハネ賛歌」の各小節の最初の音をドレミの音階と定めたことに由来します。

聖ヨハネ賛歌の歌詞はラテン語で

Ut queant laxis

Resonare fibris

Mira gestorum

Famuli tuorum

Solve polluti

Labii reatum

Sancte Johannes

あなたのしもべが

声をあげて

あなたの行いの奇跡を

響かせることができるように

私たちのけがれた唇から

罪を拭い去ってください

聖ヨハネ様

その節の最初の音はそれぞれ C・D・E・F・G・A の音になっており、歌詞を利用して Ut・Re・Mi・Fa・Sol・

La の音名を考え出しました。

Ut はフランスではそのまま使われましたが、Do として普及しました。

第 7 節の 2 つの語のそれぞれの頭文字をとると S J となるのですが J は I の異字体とみなすことができるので SI に変化したと言われていました。

このドレミが考え出されるまで、合唱隊は口伝で歌を覚えていましたが、人の記憶では小さな間違いが重なり、長い間に聖歌が変化してしまうことも珍しくなく、また覚えきるまでに相当時間がかかりました。

そこでグイードは 4 本の線の上に四角い音符を書く、現在の楽譜の表記法の原型を考案しました。当時の音楽界には大きな進歩で、聖歌を正確に記録し後世に伝えることが可能となったそうです。

音（周波数）に、なんでドレミファ・・・という音（言語）が付いているのか不思議に思ったことがありますが、やはり誰かが考案したことだったのですね。

6 月 25 日

1852 年アントニ・ガウディが生まれました。

アントニ・ガウディは、スペイン、カタルーニャ出身の建築家。サグラダ・ファミリアの作者として知られています。

バルセロナ県立建築専門学校予科を卒業し、26 歳の時パリの博覧会に出品したのをきっかけに大富豪、エウゼビ・グエルと出会います。

世界遺産の「アントニ・ガウディの作品群」の一部となったグエル公園、グエル邸、コロニア・グエル教会など、グエルからの依頼で多くの設計・建築を手がけました。この後、ガウディはバルセロナ中の富豪から設計の依頼が来るようになっていきました。

サグラダ・ファミリア聖堂は初代の建築家が、意見の相違から辞任した後を受けて 1883 年、ガウディが主任建築家に任命されました。

ガウディは設計を一から練り直し、壮年から晩年に掛けての 40 年以上を費やし製作しました。1917 年からは他のいっさいの仕事を断ってこれに専念しています。

1926 年 6 月 7 日ガウディはバルセロナ市内で路面電車にはねられ、まるで浮浪者のような格好だったために病院に収容されるのが遅れたそうです。そのぐらい、この仕事にのめりこんでいたということかもしれませんね。

残されたわずかな設計図に基づいて、未だに建築が進められているサグラダ・ファミリア。完成まで 300 年はかかると予想されていましたが、最近では、入場料収入などに支えられて順調に工事がはかどっており、公式発表ではガウディ没後 100 周年目の 2026 年には完成する見通しだそうです。

はスペイン、バルセロナにあるアントニ・ガウディの作品のうち、ユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されたものを「アントニ・ガウディの作品群」と呼んでいます。

完璧なものが世の中に存在しないように、永遠に作り続ける建物が存在するのも面白いと思います。ガウディの設計図を、いろいろな人がそれぞれに解釈して、永遠に作り続けたら・・・どうでしょうか？

6月26日 露天風呂の日

1987年岡山県の湯原温泉が制定しました。「ろ（6）てん（・）ぶ（2）ろ（6）」という語呂合わせです。

野口冬人氏によって編集された露天風呂番付では、西の横綱が湯原温泉の「砂湯」、東の横綱は宝川温泉です。西の横綱の湯原温泉が全国に向けて情報発信するために、露天風呂の日を制定しました。

この日は旅館と温泉の内湯が無料開放され、6・26（ろくてんぶろ）にちなんだ特別料金になるなど、飲食店、土産物店まで参加しての遊び心満載のユニークなイベントが催されます。

絶えることなく湧き出る温泉に感謝する、お湯取りの儀式や露天風呂の掃除が行われます。

湯原温泉は豊臣秀吉の五大家臣である宇喜多秀家が母である「おふくの方」の湯治場を開設したと言われていいます。しかし「たたら製鉄」が盛んに行われていた地ですので、太古から多くの人が、この地で温泉を楽堪能したようです。

1956年には国民保養温泉地に指定されました。（当時は厚生省、現在は環境省）

温泉は、泉質の効能も然ることながら、精神的にもゆったりのおんびりできていいものですね。あ～、仕事がなきゃ、露天風呂の日、行ってみたいな・・・

6月27日 ちらし寿司の日

岡山のちらし寿司「ばら寿司」が生まれるきっかけとなった備前岡山藩主・池田光政の命日にちなみ、2004年に寿司の食品素材を販売する広島県の「株式会社あじかん」によって制定されました。

祭りでもなく、こんな時候のよくないときに「ちらし寿司」の日だなんて・・・と思うのですが、名君の誉れ高い池田光政の命日ならば仕方がないですね。

岡山の人なら、誰でも知っていることですが、質素儉約を奨励し、庶民の奢侈を禁じた備前岡山藩主の池田光政が、汁物以外に副食を一品に制限する「一汁一菜令」を布告し、それをかいくぐる脱法行為として発展したのが、岡山の豪華なちらし寿司です。

岡山は「米のなる木を、まだ知らぬ」と民謡にも歌われているように、温暖な気候で米作りも盛んで、瀬戸内海の海の幸も豊かなことから、昔から食べ物には贅沢したのでしょう。

旬のたけのこや鱈の酢じめ、絹さやと錦糸玉子の鮮やかな彩りに山椒の香り、やっぱり春のばら寿司は最高です！

子供の頃は、ばら寿司はそんなに好きでもなかったけれど、年齢とともに好きになっていくのは、どうしてでしょうね。多くの具材を丁寧に煮あわせ、恐ろしく手間のかかるばら寿司は、まさにお袋の味です。

6月28日 1577年ピーテル・パウル・ルーベンスが生まれました。

王の画家にして画家の王と呼ばれ、諸外国までその名声を轟かせたバロック期を代表する画家で、祭壇画、肖像画、風景画、神話画や寓意画も含む歴史画など様々なジャンルの絵画作品を残しています。

1608年には、アントワープを統治していたハウスブルク家アルブレヒト大公夫妻に仕え、大規模な工房を営みました。作品はヨーロッパ中の貴族階級や収集家間でも高く評価され、画家としてだけではなく、古典的知識を持つ人文主義学者、美術品収集家としても知られています。

さらに七ヶ国語を話し、外交官としても活躍してスペイン王フェリペ4世とイングランド王チャールズ1世からナイト爵位を受けています。

ルーベンスは貴族たちに大変人気の画家で、相当数の注文があったようです。そこで工房ではルーベンスがチョークで描いたデッサンに若い画家が色をつけ、最終的な仕上げをルーベンス本人が行って完成させていたと言われています。そのため、早い作業が求められたので、太い筆で 速い筆の動きで描かざるをえなかったことが、絵の特徴にもなっています。

ところで、ルーベンスと言えば「フランダースの犬」ですよね。

ネロが、ルーベンスの絵を見ることを切望し、最期もルーベンスの絵の前で迎えています。ネロが祈りを捧げていたアントワープ大聖堂のマリア像は、ルーベンスの『聖母被昇天』です。

天使たちに囲まれた聖母マリアの顔に 2歳の時に亡くした母親の顔を重ね合わせて見ていたと書かれています。「フランダースの犬」の作家、ウイダは僅か数時間のアントワープ滞在の間にこの物語を書きました。アントワープ大聖堂のルーベンスの絵に相当感銘を受けたと考えられます。

ウイダは『聖母被昇天』の印象を小説の中で「マリア様は、波打つ金髪が肩にかかり、永遠に輝く太陽の光がひたいを照らしていました」と書いています。ネロが見たがっていた絵が、ミケランジェロやラファエロでなくて、ルーベンスだった理由が、やっと分かりました。

6月29日 1966年ビートルズが初来日しました。

ビートルズの人気ぶりについては、何度も見聞きしているので、よく知っていますが、リアルタイムでこの出来事を覚えているわけではありません。

1万人の観客に対して警備のために3千人の機動隊が配備されたとか、ドリフターズが前座で歌ったとか、卒倒した人がいたとか・・・そんな話は印象的です。

ビートルズの日本公演は読売新聞社の主催で行われ、公演の条件は「1ステージ10万ドル、1万人以上収容できる屋内会場。入場料は6ドル以下」というものでした。1ドル360円の時代、この金額は高い？そうでもない？

チケット料金は A席 / 2100円 B席 / 1800円 C席 / 1500円、でも当時の貨幣価値を考えると、0をもうひとつつけたぐらいの感じじゃないかなと思います。やっぱり、人気のビートルズ・・・

日本伝統の武芸の殿堂である日本武道館で、外国人のポップミュージックを演奏することに大変な反対があり、街宣車が出たり、TV時事放談で賛否を討論したりしたそうです。

1万人の観客を集め、武道館でコンサートと言え、アーティストのステータスですが、当時はポップミュージックになじめない大人たちにとって「若い子がキャーキャー狂う騒音」程度の認識だったのかもしれませんが。

ビートルズは日本で3日間5回の公演を行い、7月3日に次の公演地フィリピンに向かいました。滞在時間は延べ103時間だったそうです。分刻みのスケジュールと警護の都合で、メンバーはほとんどをホテルで過ごしたそうですが、ジョンだけは原宿や材木町の散策を楽しんだとか。さすが、親日家と言われるだけありますね。

戦後20年経っていますが、ビートルズのメンバーは日本に偏見がなかったのかなと思うけれども、当時のインタビューでは、日本については本で読んだぐらいでよく知らないと答えています。そして、そのインタビューの中で、名誉と財力の次に欲しいものは平和、そしてベトナム戦争に関して憂慮したコメントを出しています。

平和と言え、キリストよりもビートルズが有名だと言ったジョンの発言がありました。問題をかもしたのですが「イマジンを」作ったジョンの言葉ですからね、自分たちが一生懸命訴えることが、宗教家の活動より影響力があると考えたんじゃないかなと思えるのです。

6月30日 1994年自民・社会・さきがけの連立による村山富市内閣が発足しました。

日本社会党の村山富市委員長が首相に就任し、47年ぶりの社会党首相が誕生しました。この内閣に特に思い入れがあるわけではないのですが、この内閣が掲げたモットーが「人にやさしい政治」だったことにこだわりたいと思います。

当時の社会党と言え、土井たか子氏の人気に乗じた「マドンナ旋風」「マドンナブーム」「おたかさんブーム」がまだ続いていた頃で、自民・社会・さきがけの寄せ集め政権とはいえ、国民が変革を望んでいたのだろうと思います。

この内閣のときに、阪神大震災が起り、地下鉄サリン事件が起きています。政権交代して民主党の時に、東北大震災が起り、原発事故が起こったのと似ています。戦後50年記念の村山談話や慰安婦問題など、今になって取りざたされるのも、皮肉な感じがします。

ところで「人にやさしい政治」ってどんな意味だったでしょう？「地球に優しい」とか「おなかに優しい」とか、よく使われますよね……。なんだか違和感があるんですが。

優しいとは、穏やかで好感が持てるとか、思いやりがあるとか上品で美しい、つつましいの意味がありますが、元々は「瘦す(やす)」の形容詞形で、やせ細るような思いを表した言葉だそうです。世間に対して引け目を感じながらつつましく振舞う様子を好ましいとする用法でした。その後「こちらが恐縮するほど思いやりがある」として使われたようです。

「優しい先生」とか「先生が優しくしてくれる」「生徒に優しい」は通常使われますけど、「地球に優しい」は……。何かおこがましい気がするの、おっちゃんだけかな？

違和感がある言葉と言えば、最近よく使われる「安全安心」という言葉。安全なのは、地域であったり器具であったり、一方安心なのは、住む人であったり、使う人であったり。つまり主語が異なる言葉を並列にしているから？

キャッチコピーが大流行りで、インパクトさえあれば、少々用法が間違ってもOKなのかもしれません。言葉は生き物、時代とともに変化するのも仕方がないけど、こうした言葉に対して違和感覚えるって、年のせいかな……